



兵庫教育大学 大学院同窓会 会報

第三十五号

平成二十三年三月発行

兵庫教育大学大学院
同窓会 広報部

教員養成の高度化

— 中教審・教員の資質能力向上特別部会の
審議経過報告（2011年1月）について —

兵庫教育大学長 加治佐 哲也

1. 教員養成の高度化は必要

教師教育は養成— 選考・採用— 研修の三段階から成りますが、2011年1月31日に出された中教審・教員の



資質能力向上特別部会の審議経過報告は、これらを一括して、教員の資質能力向上の方策や仕組みを総合的に検討することを求めています。そして、当初の予想どおり、教員養成の高度化を目指して、新人教員の養成期間を「学部4年+アルファ」に長期化すること、また現職教員用の専門免許状を創設することが提案されました。このような改革構想は、国の責任として質の高い教師教育制度の構築を志向しているといえます。今日の学校教育では、学校現場の複

雑な課題を解決できる高度な専門性と実践的指導力が教員に求められていることは明らかであり、新人教員養成を「修士化」すること、現職教員へ専門免許状を付与することはその具体策として理解できます。

2. 教員養成の高度化と 兵庫教育大学

兵庫教育大学はこれまで、実践的指導力と高度な専門性を有する教員の育成を目指し、実績をあげてきました。そうした本学の目的や取組が教員免許制度に具体的に反映されるということでもありません。従って、本学のミッションやこれまでの実績と軌を一にする

と受け止めており、本学にとっては新たな発展の契機になりうると考えています。

3. 制度設計上の課題

しかし、その具体の制度設計と実施にあたっては、多様な課題が想定されます。とくに、受け皿となる教職大学院の仕組みと運用については多くの問題が指摘されています。教員養成の長期化による教員志望者減や、養成する大学院の絶対数不足が懸念されます。当初廃止するとされた免許更新講習の行方をはっきりさせなければなりません。

ん。新しい制度実現の基盤となる財源の確保も、国の財政状況をみると安心できません。拙速に制度化を進めるのではなく、これらの課題を十分に検討・解決する必要があります。

4. 教職大学院の課題

教職大学院は、審議経過報告における焦点であり、今後が重要です。教職大学院は、「学部4年+アルファ」のアルファの部分と専門免許状のための教育を担う中核とされています。教職大学院の位置づけや役割がより明確になることであり、歓迎すべきことです。が、それを果たすためには、これまでの成果の検証と課題の解決に加えて、「理論と実践の融合」に一層の磨きをかけることや、学校現場・教育委員会との連携関係をより深化することなど、一段のレベルアップが求められるように思います。

5. 兵庫教育大学の これからの取り組み

兵庫教育大学では、文部科学省からプロジェクト経費を得て、学部と修士課程を含めて、4年+アルファと専門免許状のための教育課程と連携方法を開発・試行する実践的研究を、この4月から始めることにしています。

大学院同窓会創設30周年、 次のステージへの構想

大学院同窓会事務局
都道府県連携推進本部 事務局長 伊藤 泰弘

今日も遠距離電話が繋がりました。

私の日常の務めの一つです。お互いに顔を知らないということが殆どで、ただ「兵庫教育大学大学院で学んだ」というだけの関係です。にもかかわらず、受話器から届く声への親しみは格別のもので、複雑な事務の合間の癒しになっています。

そんな機会の度に、同窓会の意味を考えることも多くなりました。

まず何よりも、人的ネットワークの拡がりを挙げる事ができるでしょう。この3月で、修了生は7,600名を数えます。会員それぞれの名簿情報から、責任ある役割を担われ活躍しておられる姿が見えてきます。こんなに充ち満ちた同窓の皆さま方との交友を、現職である時代に、なぜもつと求めなかつたのだろうかという後悔さえ生まれています。

さて、大学院同窓会の現状に話を移します。
大学創立30周年を機会に大学と大学

院同窓会の〈今後に向けた方向性〉が一致し、平成21年4月、大学に「都道府県連携推進本部」が設置されました。

「大学院同窓会事務局」を兼務する体制を整え、次の10年に向けた目標に照らして新たな活動を展開する余力が生まれてきています。大学と大学院同窓会の連携のもとで、同窓生へのサービス提供を目的にした多くの事業が順調に展開しています。

30年にわたる大学院同窓会活動に大きな変化がもたらされています。一語では沈滞と言える残念な状況であるのですが、現職教員の本学大学院派遣を休止する自治体が増えたことにより、〈組織拡大や人事刷新が期待できない、先ずほみである〉という思いが支部活動への意欲を鈍らせています。

大学院の研究組織の改編、ストレート院生の比率増、また神戸サテライト研修者の増加など、学修環境の変移も大きい昨今です。単に活性化の方途を対症療法的に探るだけに留まらず、時

代や人心の変化に対応させながら、組織を見直したり新たな活動を生み出していく必要があるのでしょうか。

そこで、都道府県支部の活性化の方向を探ることと共に、今後の大学院同窓会のあり方を考える「基本問題検討委員会」が設置され、慎重に検討が重ねられました。その報告書には多方面にわたって改革案が示されていますが、なかでも喫緊の取組課題として、次の事柄が挙がっています。

(1) ブロック活動を展開する。

(ア) ブロック組織を復活し、「ブロック主催」「支部共催」の事業を展開する。

(イ) 本部はブロック活動に係る「活動推進費」を予算措置し、経費的支援を行う。

(2) 支部の活性化を促進する。

(ア) 「支部会員名簿」を常置し、支部連絡会を定例化する。

(イ) Hyokyo-net支部ページを常用するなど、支部会員への広報手段を確立する。

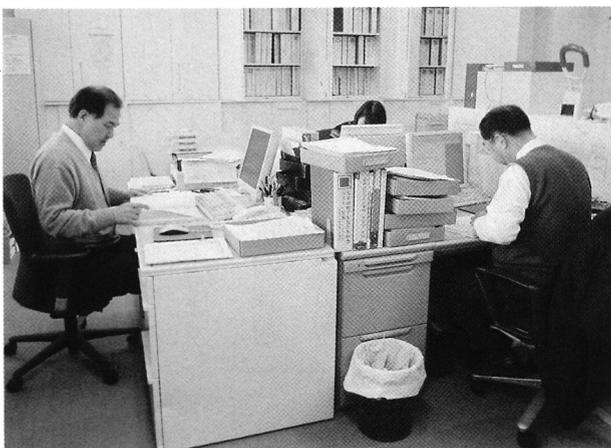
(ウ) 本部は支部活動に係る「研究会費」を予算措置し、経費的支援を行う。

(3) 2,700名余を擁する兵庫県支部組織を再構築する。

正副ブロック長や評議員の皆さま方

をはじめ、役員の方々は大きな責任を担われました。しかし、この提案から何をどうするべきかが見えてきたというところでしようか、ブロック会議の開催、会員連絡網の作成、Hyokyo-net支部ページの更新、支部連絡会の立ち上げ等々、各地方に確かな「胎動」が始まっています。これらの取組が上手く醸成され、兵庫教育大学大学院同窓会が再び活力に満ちた姿へと変容していくことを強く願っています。

事務局は、今後もこれらの方針また実践課題に則した運営に努めることで、後押しをさせていただきます。全ての会員の皆さま方のご理解とご協力をお願い申し上げます。





演 第30回兵庫教育大学大学院同窓会 岡山大会
 「兵庫教育大学の
 最近の10年、今後の10年」

講師 兵庫教育大学長 加治佐 哲也

30数年前、兵庫教育大学はこれからの日本の教育のリーダーになる現職教員を受け入れ、研修を積み、教育を振興していくための人材を養成するという役割をもって創設された。「現職教員の教育のモデル、大学院のモデルなる」ということで発足した。本学は「教員養成・研修についての全国の先進モデル」をミッションとし、以前から変わらない理念を持ち続けている。

最近の10年では法人化が始まり高度な専門職である教員の養成に特化した有用な教職大学院を設置した。教職大学院は、学生に実践的な指導力をつけることを目的としている。そこでは「現場で校内研修を実践し、学校が変わったと良い評価を受ける」といった取組を行い、大きな成果を上げている。来年4月からは複合的な専門性を身につけていくため、修士課程を改組して新しい形にする。また、社会貢献活動、地域貢献活動に積極的に取り組んでいる。スクール・パートナー事業もそのひとつである。そういった意味でも本学の存在意義が非常に高くなってきたといえる。

今後の10年では本学の存在意義を高める先進的取組を一層推進しなければならぬ。まず、教員養成スタンダードの構築についてである。本学では自らの養成する教師像を示して教員を目指す学生の教育を行ってきた。それを

さらに学生自身がその教師像を到達基準という形で捉え、高い資質能力と専門的知識や指導技術を身に付けるといふ意識を持って取り組めるようにしなければならぬと考えている。学部段階での到達目標を明示し、どのような能力を向上させていくのかを可視化する。つまり、大学として養成する資質

を明確にすることが重要であると考えている。そのために学生が高い目標と意識をもって学び続けることができる学習支援システムと組織的な指導体制を構築し、目的を達成するための教員スタンダード（学生と教員双方に可視化された到達基準）を策定している。その基準に対する学生自身の自覚と意欲的な学習活動への取組を促しながら、多様な領域での取組を統合的に展開させる全学的な指導体制の確立を図り、教員養成教育の質保証を行っているかなければならない。本学ではこの指導体制が全国モデルとなるように教員養成スタンダード推進機構を設置している。総合教職キャリアセンターを設け、学位修了後も学生を支援して行くことができる体制を作っている。これは教員養成スタンダードを実現するための推進本部といえる。eラーニング

に学生自身がその教師像を到達基準という形で捉え、高い資質能力と専門的知識や指導技術を身に付けるといふ意識を持って取り組めるようにしなければならぬと考えている。学部段階での到達目標を明示し、どのような能力を向上させていくのかを可視化する。つまり、大学として養成する資質を明確にすることが重要であると考えている。そのために学生が高い目標と意識をもって学び続けることができる学習支援システムと組織的な指導体制を構築し、目的を達成するための教員スタンダード（学生と教員双方に可視化された到達基準）を策定している。その基準に対する学生自身の自覚と意欲的な学習活動への取組を促しながら、多様な領域での取組を統合的に展開させる全学的な指導体制の確立を図り、教員養成教育の質保証を行っているかなければならない。本学ではこの指導体制が全国モデルとなるように教員養成スタンダード推進機構を設置している。総合教職キャリアセンターを設け、学位修了後も学生を支援して行くことができる体制を作っている。これは教員養成スタンダードを実現するための推進本部といえる。eラーニング

グシステムの開発、「理論と実践の融合」に関する共同研究も推進していきたい。

新政権になり新しい教員養成・研修の制度をつくらうとしているが、「教員養成課程の6年制」や「専門免許」に対応するような取組も当然行っていない。教員養成課程の6年制については大学間連携を強化していかねばならない。本学の学部教育と大学院は非常に実績がある。兵庫県の私立大学と連携組織を作り、教員養成と研修をより一層円滑に進めるということをやっている。さらに教育委員会との連携である。本学と教育委員会との連携は非常に進んでいる。しかし、大学が初任者研修を担い、それに教育委員会が色々な支援をするといった新しい形の連携を進めなければならない。人的、物的な設備面も含めた連携ができる体制を作らなければならない。

教育単科大学として非常に評判の高い兵庫教育大学。今後も明確なミッションのもと、今まで培ってきた歴史と環境の「強み」を生かしながら全国の先導モデルとしてあり続けなければならない。

（文責：岡山県同窓会）

記念講演 「津田永忠の新田開発の心」(要旨)

講師 就実大学 前学長

柴 田 一 先生



「備前きつての秀才」「岡山藩の元

禄時代をつくった男」と言われた津田

永忠という人物について述べる。永忠

は、三十三歳まで岡山藩主・池田光政

のもとでお仕えした。それまでに永忠

がしたことは、池田家の和意谷墓所、

それから閑谷学校、そして井田とい

江戸の時代の田んぼである。和意谷墓

所は、高い山の頂上にある。頂上まで

上がると池田家のゆかりのある地・播

州の山が見える。だから墓所を麓から

距離がある山の頂上につくったのであ

る。永忠が関わった和意谷墓所、閑谷

学校、井田は三点セットであり、実は

儒教の心を写している記念物である。

永忠が三十三歳の時に、池田光政が

引退をした。永忠は、光政から和意谷

墓所と閑谷学校と井田の管理を命じら

れたため閑谷へ行った。しかし、永忠

が閑谷へ行った途端に、飢饉になつた

り大洪水で米がとれなくなつたりし

た。おまけに幕府からの京都御所の再

興命令があり、とにかく収入は少ない

のに支出だけがふえていった。とうと

う延宝四年の頃には、参勤交代ができ

なくなつた。そんな時に光政の子・綱

政が、この未曾有のピンチを克服する

には、永忠を起用する以外ないという

ことで、永忠を閑谷から呼び戻した。

永忠は、七か年計画で藩政の立て直し

をすることにした。永忠は、まず疲弊

した農村の復興に取り組んだ。田を開

拓して税収を増やしていく。後楽園は、

綱政が「つくれ」と命令したからつくった。永忠が本当に命がけでつくろうとしたのは新田だったのである。新田をつくることによつて、百姓に存分に働ける動機を与えて税収を上げ、これを藩の収入にする。そうしないと「仁政」はできない。そのため永忠は新田開発をしたのである。

次に、新田開発と治山治水について述べる。熊沢蕃山は、治水と開発とは両立しないと考えていた。ところが、永忠は、治水も開発も両立できるものと考えた。樋門という新技術を導入することで見事両立させることができた。

次に、永忠の領民観について述べる。永忠はいろいろな新田を開発した。倉田新田、それから幸島新田。ここまではあまり領民からの反対はなかった。しかし沖新田をつくる時には猛反対があった。副業として児島湾で魚を獲っていた十力村の百姓たちが、新田開発によつて魚が捕れなくなるからである。ところが永忠は、開発に伴う領民の損失を補償しようとしたのである。三百年前に補償という概念があったのである。また、百間川をつくることによつて水はけが悪化した百間川流域の領民にも補償をしている。

神社がある。その神社にはいくつものなぞがある。神社ができたのが元禄八年。新田開発が始まったのが元禄五年。二年半で神社ができていた。二年半では沖新田に氏子が入っていないはずである。

では一体誰が神社をつくつたのだろうか。沖田神社は、岡山藩がつくつたものである。この沖田神社には、おきた姫の人柱伝説という言い伝えがある。今から二百年ほど前に書かれた本には人柱になるためおきた姫が入つたという話がかかれていた。なぜ氏子でもない岡山藩が神社づくりに力を入れたのか。なぜ何度も神社は床上浸水の被害にあいながら十五年間も移していなかったのか。永忠が死んで二年後に神社を移している。おそらく永忠は神社の場所にこだわっていたにちがいない。これらのなぞを解くためには、おきた姫の人柱伝説を歴史的事実としてとらえなければ説明がつかない。

永忠は、常に百姓たちの暮らしを考へてきた。永忠は、本を読んで学んだり、光政が家来に対して話していることをそばで聞いて学んだりする耳学問をしたりする中で、彼の政治哲学が確立していった。私は、改めて耳学問の大切さを感じている。

(文責…岡山県同窓会)

Panel-discussion

支部訪問①

【山口県】

子どもに夢を

キャリア教育をどう進めるか



▲挨拶をする石川会長 (社会系4期)

兵庫教育大学大学院同志会山口県支部(石川芳己会長、会員数九七人)は、第二七回総会・研究発表会を平成二二年八月二八日、湯田温泉の防長青年館に三三人を集めて開催された。

総会の後、教育方法四期の田中淳夫会員(元山口市立大殿小学校長)の司会で、「今、学校で課題になっている、子どもの夢を育む指導のあり方について専門家や学校関係者が熱く語りま

す」として、キャリア教育を主題にパネルディスカッションが始まった。意見交換も熱心に行われたが、紙幅の関係で以下パネラーの要旨をあげる。キャリア教育の授業を担当する心の

教育実践開発コースの古川雅文教授

は、学力低下への危惧や行政のキャリア教育施策を説明し、この教育が幼稚園から大学までの発達段階に及び、四領域八能力を基礎的汎用的に推進することを示唆するとともに、データ類を活用したマッチング理論やSuperの発達理論から個の役割・生き方にふれ、キャリア教育の総括的諸課題を論じた。

社会系五期の西川敏之会員(柳井市立柳東小学校長)は、わかる授業の効果として子どもが自信を持ち、自己肯定感が高まることを挙げ、そのためにもコミュニケーション能力は重要であり、日頃の授業でつけさせたいと語る。

教育基礎一六期の國澤尚明会員(萩市立大島中学校長)は、キャリアアイダンスの重要性を指摘し、自信をつけさせるのは「他からの承認」であり、それに授業の中で取り組み、学校生活の中で「ほめること」を推奨した。

教育方法一九期の岡村弘子会員(周



▲パネリストの古川教授や西川・國澤両会員

防大島町教育委員会指導主事)は、県がめざすキャリア教育のねらいが「夢や希望をもち、一人の社会人として自立できるよう、自分にふさわしい生き方を実現しようとする意欲や態度、能力の育成」であり、その進め方は「①小学校段階から教育活動全体で発達段階に応じて、②職場体験やインターンシップ等の体験活動を重視して、③学校・家庭・地域との連携・協力を展開すること」とし、産業界への働きかけ「やまぐち教育応援団」を紹介した。

休憩を挟み、第二九期生(同年三月修了、学校経営コース)の修了生報告会があった。題目は、山本時弘会員が

「学校経営ビジョンの共有化と組織化を活かした教育実践」、伊藤幸子会員が「今後の『学校づくり』支援に向けた提案」であった。報告者は教職大学院の効果を問われたが、行く前と比べて「自信がついた」「迷わなくなった」と、その有用性を語っていた。同会場では引き続き会員相互の発表と討議が続いた。この日の活動は、文字通り支部活動の鑑として紹介することのできる充実した内容だった。

当日の朝刊(『読売新聞』読売新聞西日本本社)は一面トップで、「公立小中、三五人学級来年度から、文科省計画八年かけて教員一万九千人増」と報じた。これは山口県では既に県費を充て実現済みだ。当地を訪れる度に感じるが、伊藤や木戸を輩出した松下村塾や長州藩校明倫館(現萩市立明倫小学校、新川美水校長、生活・健康系六期)はもとより、中学校令の折も特別に山口高等学校を開くなど、この地の学校教育がめざす薫陶精神には、派手さや流行りを追うこともしない、常に肅々とした何か深きものを感じさせているかのようである。

(筆、研究部/中尾)

岐阜大会を同窓会のターニングポイントにしよう!

大会テーマ

『歴史が息づく岐阜の街から
新たな教育の歴史をつくろう』

8月20・21日
(岐阜県：岐阜市)



▲岐阜県役員
(上越・鳴門両教育大も出席)



岐阜大会準備委員会
(岐阜市・陽南中学校2月5日(土))

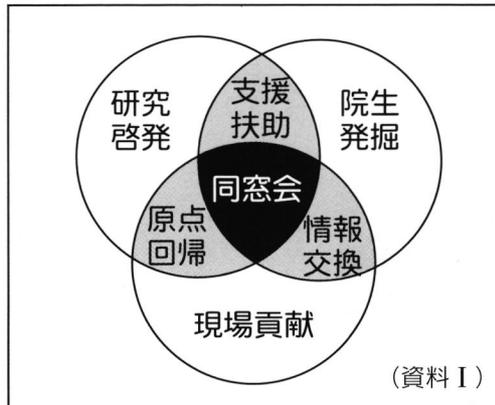
▲支援に参集した中部
ブロック県代表

進化論で著名なダーウインは「生き残れるのは、最も強いものでも、最も知的なものでもない。最も変化に対応できるものが生き残る」と指摘しています。本同窓会も厳しい社会状況と教育環境の中、「しなやかに、したたかに」対応しながら、特に教員養成の修士レベル化等を見据え、将来の基礎づくりをしていく必要があります。

〈アイデンティティ化〉

幸いに平成21年度より、本会に「事務局」と「都道府県連推進本部」が設置されました。これにより、既存のシステムが効率的・効果的に作動する中、今こそ、全会員のアイデンティティのベクトル化を強力に促進して、時代の変化に対応すべきです。

集団心理学の『体系化』では、集団構



これらは自ずと、「研究啓発」や「現場貢献」「院生発掘」にと連動し、同窓会の役割を果たすこととなります。

〈アクション化〉

全国大会(岐阜市)の準備委員会(上記写真)には、中部ブロック支援として10県中9県の代表が参集しました。

大雪や大雨、そして長距離・長時間

同窓会の 活性化考

全会員のアイデンティティ化 全役員の能動的アクション化 全ブロック内でのアタック化

「情報交換」により、多面的に現状認識し「原点復帰」ができます。また現職やその後の社会活動等の場合では、

「情報交換」により、多面的に現状認識し「原点復帰」ができます。また現職やその後の社会活動等の場合では、

造力・集団風土力・集団凝集力が構成要素です。本会は全てを満たしているなか、アイデンティティが主の「集団風土力」をとらえてみました。(資料I) 同窓会員が互いに邂逅することで、院生時代の使命観や教育愛等を再び確認し「原点復帰」ができます。また現職やその後の社会活動等の場合では、

会員のアイデンティティ

- ・互いに「原点復帰」をする。
 - ・互いに「情報交換」をする。
 - ・互いに「支援扶助」をする。
 - ・互いに「研究啓発」をする。
 - ・互いに「現場貢献」をする。
 - ・互いに「院生発掘」をする。
- (資料II)

の移動にもかかわらず、「会員のアイデンティティ」(資料II)を旨に馳せ参じてくれました。「本部・ブロック役員が何をしてくれるかを問う前に、同窓生として何をなすべきか」を自答しての共通理解と共通行動だったので。同役員から「受動的スタンス」から、同窓生のアイデンティティをもった「能動的アクション」を享受しました。

〈アタック化〉

遠距離のため全国大会の参加が難しくても、ブロック大会は十分可能です。教育行政をはじめ、地理・歴史・文化等の共通性と近接性からも、会員活動の掘り起こしに「アタック」すべきです。岐阜大会支援を機に、中部ブロックに「嬉野の火」が全県で灯火しました。



勝俣得男 (副会長・組織部
第4期生社会系 栗田ゼミ)
中国同済大学客員教授上海市
日本大学国際関係学部講師

兵庫教育大学大学院同窓会第28期決算報告書

(収入の部)

自平成21年6月1日～至平成22年5月31日

科目	予算額	決算額	増減	摘要
会費	965,250	4,887,180	3,921,930	298名+28名
繰越金	2,484,130	2,484,130	0	
雑収入	200	669	469	利息
合計	3,449,580	7,371,979	3,922,399	

(支出の部)

部	款 項		予算額	決算額	増減	部	款 項		予算額	決算額	増減			
	款	項					款	項						
総務部	役員会費	旅費	190,000	511,030	△321,030	広報部	印刷費	会報印刷費	205,000	206,115	△1,115			
		会議費	10,000	10,280	△280		郵送費	会報発送費	100,000	6,331	93,669			
	渉外費	旅費	10,000	11,380	△1,380		事務費	計	需要費	3,000	3,191	△191		
		需用費	10,000	0	10,000				通信費	7,000	1,680	5,320		
	事務費	通信費	20,000	1,060	18,940				旅費	3,000	2,683	317		
		印刷費	80,000	81,081	△1,081				会議費	2,000	0	2,000		
計		320,000	614,831	△294,831	計		320,000	220,000	100,000					
会計部	事務費	需要費	10,000	11,172	△1,172	事業部	事務費	印刷費	100,000	0	100,000			
		通信費	10,000	11,600	△1,600			需要費	0	0	0			
		会議費	5,000	0	5,000			旅費	0	0	0			
計		25,000	22,772	2,228	計				100,000	0	100,000			
研究部	研究会会費	講師謝礼	80,000	80,000	0	組織部	事務費	需要費	0	0	0			
	事務費	需要費	0	0	0			通信費	30,000	0	30,000			
		旅費	30,000	0	30,000			旅費	0	0	0			
計		110,000	80,000	30,000	計				30,000	0	30,000			
収入決算合計：7,371,979円						総会費						350,000	350,000	0
支出決算合計：1,292,243円						予備費						2,194,580	4,640	2,189,940
差引残高：6,079,736円 第29期繰越金にあてます。						繰越金・その他						2,194,580	4,640	2,189,940
兵庫教育大学大学院同窓会運営積立金会計は、次のとおりです。						合計						3,449,580	1,292,243	2,157,337
兵庫教育大学大学院同窓会運営積立金														
定額貯金 5,543,000円 平成19年10月31日預入														
《昭和59年8月24日預入分》														

以上、報告いたします。

平成22年6月19日

兵庫教育大学大学院同窓会会長 大橋 博
同 副会長兼会計部長 北山 鎮道

監査報告

上記の第28期決算報告並びに運営積立金会計を監査した結果、正確であることを認めます。

平成22年6月29日

兵庫教育大学大学院同窓会監事長 望月 茂
同 監事 岡崎 弘・塚崎 博之
田中 嘉明・中根 弘之
中園 大三郎・早川 求
中本 幸美・牛田 敏雄
畑 中 佳美

編集後記

多くの方々のご支援・ご協力をいただき、お陰様で本会報を発行することができました。誠にありがとうございます。

加治佐学長(昨年4月就任)の巻頭言、

岡山大会の報告とともに、同窓会の新たな動き
— ブロックが支援する同窓会全国大会、支部
訪問、基本問題検討委員会
等 — を伝えることで、互
いの「絆」を少しでも深め
ることができればと願っ
ています。読者の皆様に
何らかの形でお役に立て
れば幸甚に存じます。

〈山口県 西川敏之〉



第1回嬉野賞・奨励賞授賞式

第30回兵庫教育大学大学院同窓会・岡山大会



第30回 兵庫教育大学大学院同窓会全国大会（岡山大会） 平成22年7月24日 於 ピュアリティまきび



▲ 懇 親 会



▲ 総 会

次回は
岐阜大会で
集おう

期日：平成23年8月20日(土)
～21日(日)
会場：鶴匠の家すぎ山（岐阜市）

▶ 巡
検（旧関谷学校）

